

情報通信審議会
標準化政策検討委員会 中長期的戦略WG(第3回)

資料03-07



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

標準化の進め方について

1. 標準化されるべき技術
2. 標準化活動の進め方
3. 国に求めること

2011年6月15日

三菱電機株式会社



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

標準化の目的

－ インフラに関するもの(通信、鉄道、ライフライン等)

- ・ 普及による生活改善(パイを大きくしてからシェアを増やす)。

⇒デジュール標準が主でフォーラム標準がサポート

[理由]

- ・ 新たな市場を作る必要がある。
- ・ 製造者・運用者・使用者に対してそれぞれ利が享受される必要がある。

－ インフラ以外のもの(自動車、昇降機、コンピュータ等)

- ・ コストダウン、調達容易性の改善(最初からシェアを増やす※インフラによりパイは最初から大きくなっている)。

⇒デファクト標準で推進

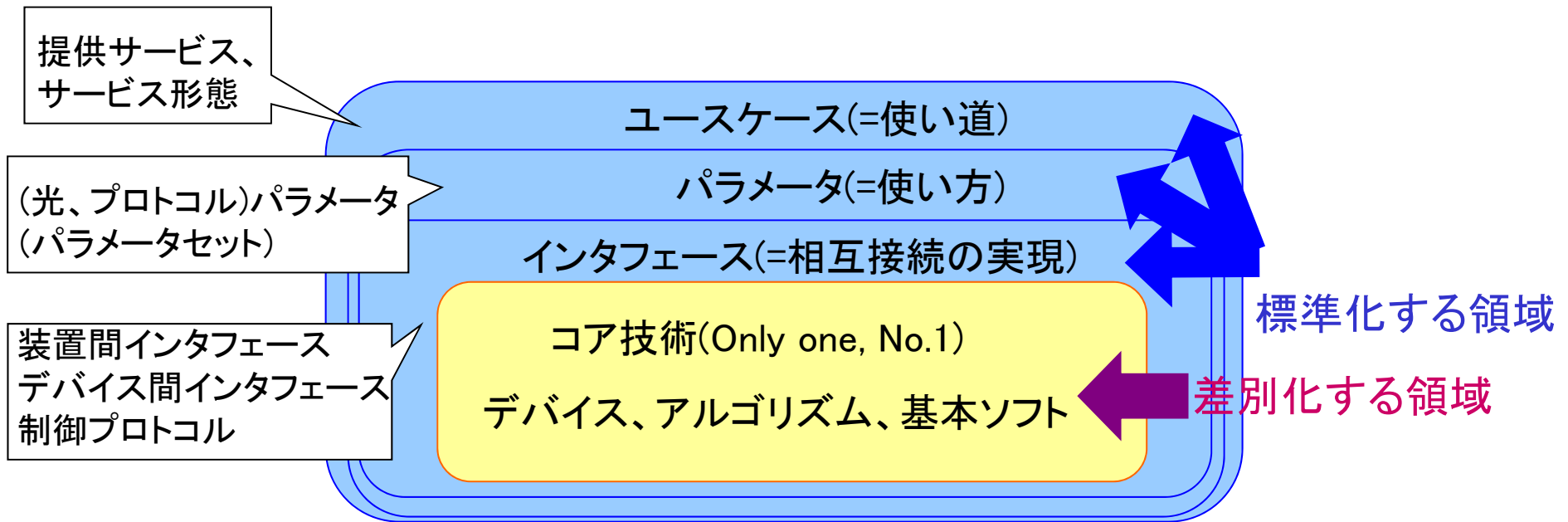
[理由]

- ・ 強い製造者が牽引。
- ・ 解がユニークである必要がない(囲い込み政策の考え方による)。
- ・ 部品、モジュールの標準化を活用してコストダウンに結び付ける。



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

- ・ 標準化(オープン化)する技術と差別化する技術
 - 標準化する技術(パイを大きくする技術): 普及に必要な
インタフェース・パラメータ・ユースケース
 - 差別化する技術(大きなパイでシェアを取る技術): オンリーワン技術、
ナンバーワン技術(コアデバイス、アルゴリズム、基本ソフトウェア)



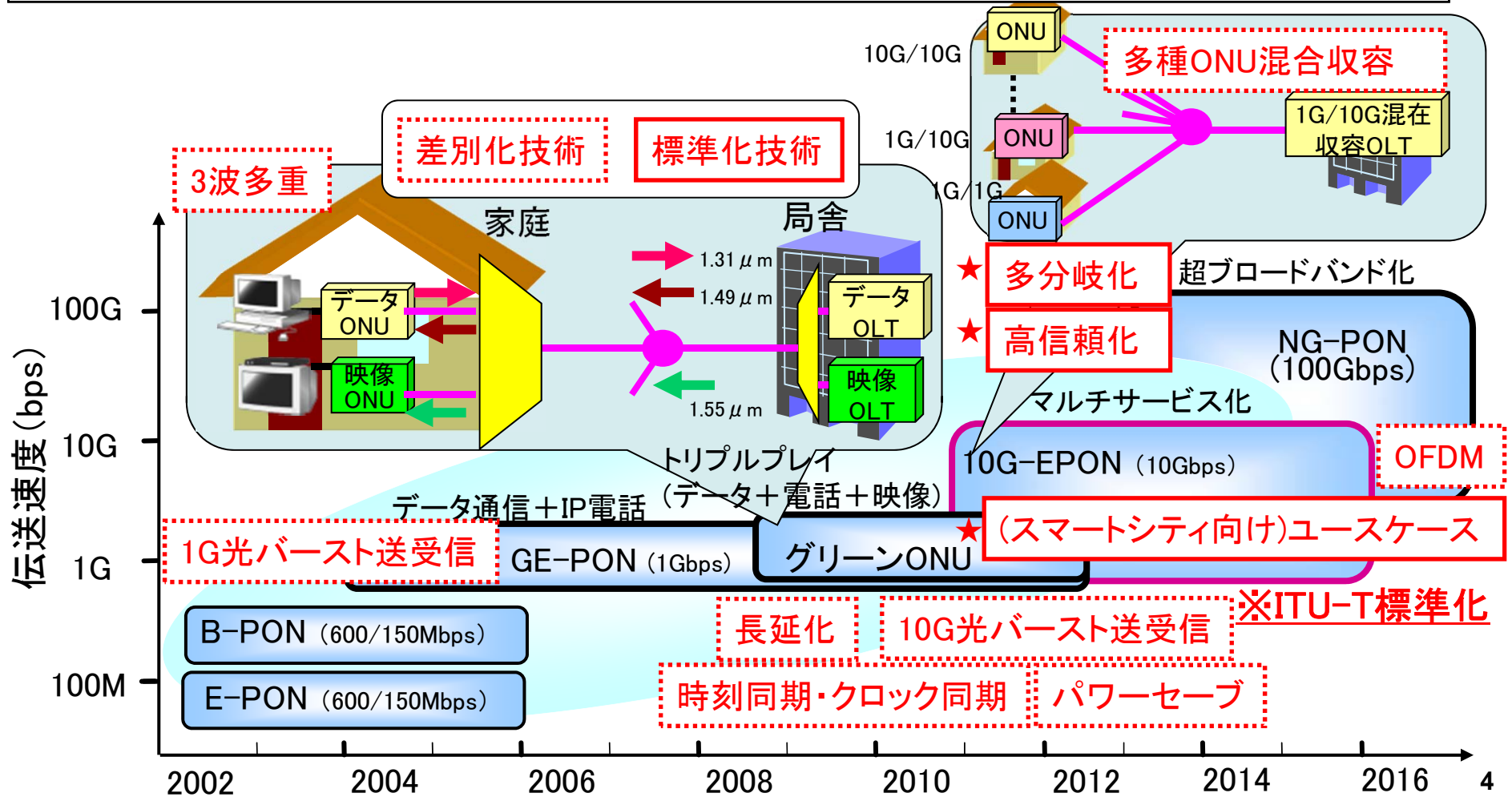
- ・ コア技術を使わせる仕組みを標準化。これにより、最適化されたシステム・装置とコア技術単品の両面で国際競争力の増強が可能。
- ・ コア技術までも標準化すると「安かろう、悪かろう」製品が横行し、日本製品の競争力が失われ、「安心・安全」な装置はできない。



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

- 世界的なエリア拡大(FTTHの普及率向上)に向けた標準化されるべき技術と差別化する技術

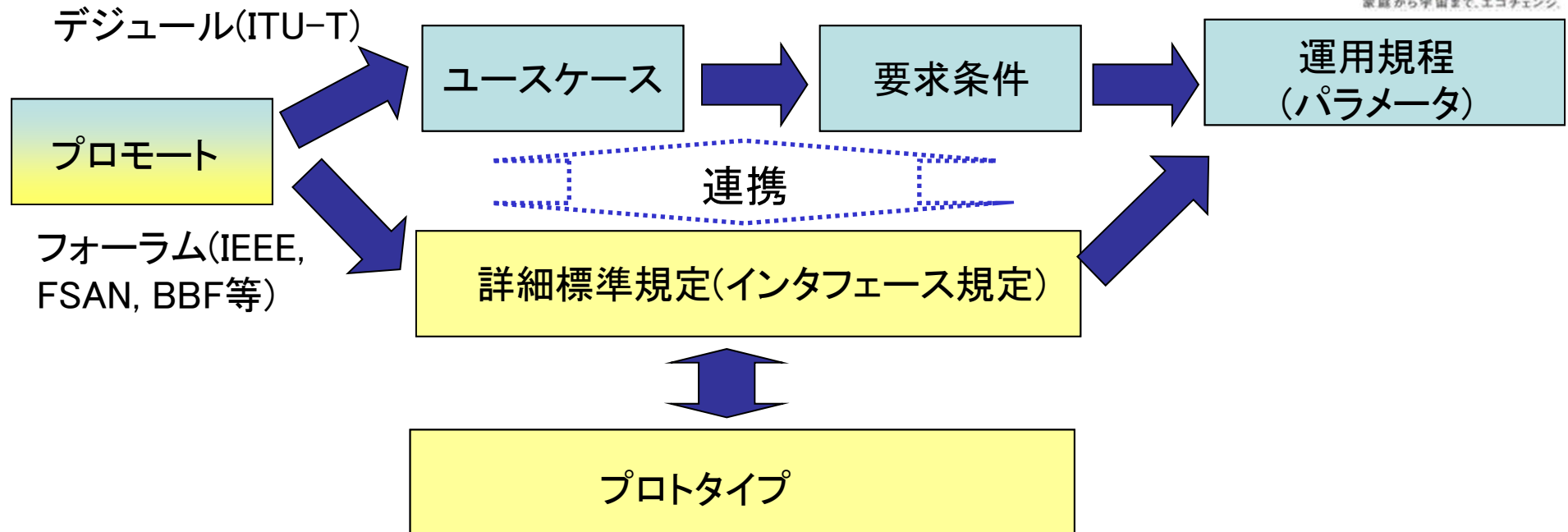
多分岐化: 電気/光分岐制御・多リンク制御・センサーネットワーク連携
高信頼化: 伝送路冗長化・多重障害制御・キャリアダイバーシティ





家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

標準化における活動方針



- ・普及推進にはデジュールの承認は必要(国策として導入する新興国では必須条件)。
- ・標準の質の向上、スピード感を出すためにはフォーラムとの連携が必要。
- ・標準化を獲得し普及させるためには各ステージの発言権を得て標準化のナビゲータになる必要がある。
 ⇒プロモータとして初期から参加する必要がある(長期に参加できる体制作りと人材育成が必要)。
 ⇒技術検証をするプロトタイピングとの連携を図る。
 ⇒異文化交流による多角的な視点で検討を進める必要がある。



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

- ・ 国内の体制作り
 - 標準化を進めるための国内フォーラムの設立とサービス、運用、装置、デバイス等の様々な観点から議論を行うための異業種間連携の推進。
 - 長期(2～3年)に渡り標準化を推進するための人材育成プランの確立。新興国のように国家名義での標準化派遣等の拡大も検討要。
- ・ 国際間調整
 - 国際間協調のための他国主管庁、主要通信事業者との交流の場の設置。
 - 標準化後のシステム導入のための現地運用者、保守者との連携の枠組みを構築(個社でやると似たような作業に対し多大な費用と時間がかかり阻害要因となる)。
- ・ プロトタイピング及び技術検証のサポート
 - 個社ですべてのシステムを構築するのは難しい。オープンイノベーションの観点からも、個社間調整(権利化等の調整を含む)を期待。